

令和5年度 関東高等学校女子バスケットボール大会 兼 第77回 関東高等学校女子バスケットボール選手権大会

令和5年6月10日(土) Bブロック 1回戦 緑が丘スポーツ公園体育館 Cコート 第2試合

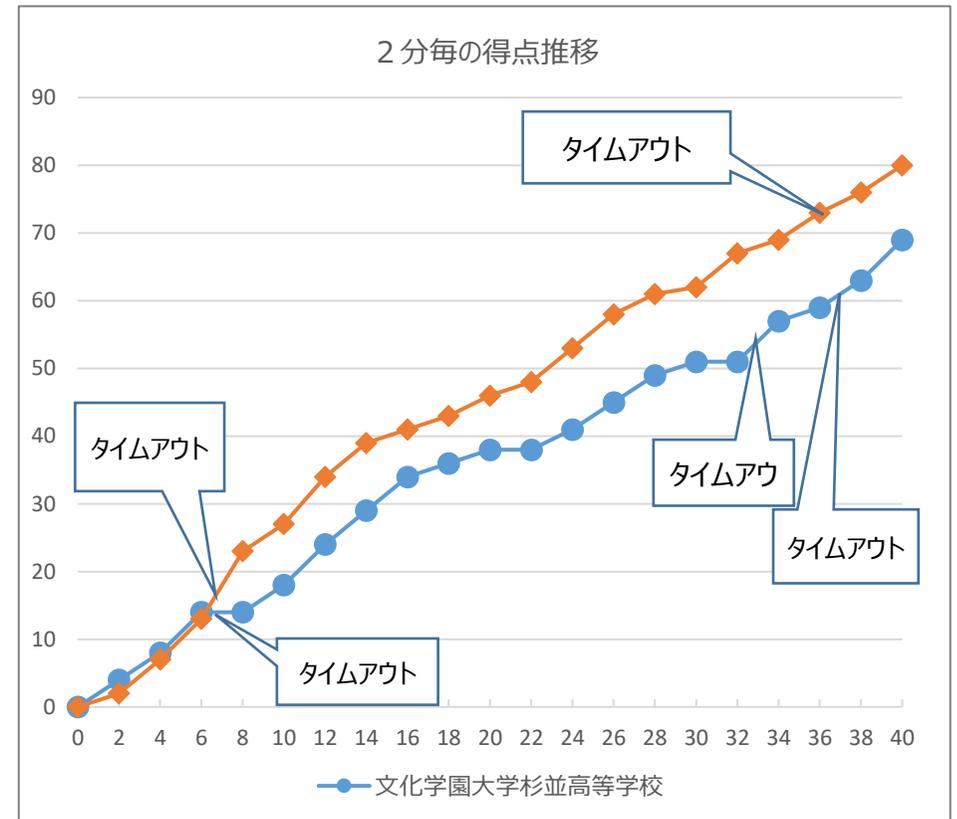
チームA	69	18 1st 27	80	チームB
文化学園大学杉並高等学校 (東京都)		20 2nd 19		県立八千代高等学校 (千葉県)
		13 3rd 16		
		18 4th 18		
		OT		

Aチーム：文化学園大学杉並高等学校

	S	No.	氏名	PTS	3P FG		2P FG		FT		F	REBOUNDS		
					M	A	M	A	M	A		OR	DR	TOT
1	*	4	水野 希恵	7	0	0	2	5	3	5	4	4	0	4
2	*	5	渡辺 優亜	6	0	2	3	9	0	0	2	5	3	8
3	*	6	福良 蓮	18	1	3	7	13	1	6	4	4	5	9
4	*	7	吉岡 真冬	22	6	21	2	4	0	0	2	0	5	5
5		8	鷲尾 在	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0
6		9	大瀧 詩乃	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	2
7	*	10	石曾根 千波	6	0	1	3	8	0	0	1	1	6	7
8		11	田中 琉乃	8	0	5	4	8	0	0	1	2	3	5
9		12	古矢 美海	2	0	0	1	6	0	0	4	3	0	3
10		13	五島 桜果	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
11		14	藤巻 美海	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
12		15	今溝 七海											
13		16	野中 和香											
14		17	長谷川 萌恵											
15		18	花房 香弥	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
HC/TEAM												3	3	6
合計				69	7	32	22	58	4	11	21	25	25	50

Bチーム：県立八千代高等学校

	S	No.	氏名	PTS	3P FG		2P FG		FT		F	REBOUNDS		
					M	A	M	A	M	A		OR	DR	TOT
1	*	4	八木ヶ谷 滯	26	3	13	4	12	9	10	0	0	2	2
2	*	5	永沢 侑実子	14	2	10	3	14	2	4	3	4	6	10
3	*	6	澤 優佳	15	0	0	6	11	3	5	2	7	15	22
4	*	7	角田 帆華	4	0	1	2	3	0	2	2	2	1	3
5		8	諏訪原 芽依	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	*	9	武藤 有加	13	1	3	4	8	2	3	2	0	6	6
7		10	佐藤 姫花	6	2	2	0	0	0	0	1	0	1	1
8		11	児玉 咲	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
9		12	田口 里紗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10		13	荻原 かな	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
11		14	下田 百華	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
12		15	前田 優菜											
13		16	堀 心優	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14		17	加藤 直央	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15		18	根本 姫莉彩											
HC/TEAM												3	6	9
合計				80	8	30	20	49	16	24	10	16	38	54



戦評 記者：宮下 敏治 (山梨県高体連)

1Q：両チームマンツーマンディフェンスでスタート。緊張からか、なかなかリズムを掴むことができない両チーム。文大杉並は早い選手交代でリズムを掴もうと試みるが、八千代の多様なディフェンス変化に対応できずに苦しい展開。八千代は#4の鋭いドライブを皮切りに徐々に得点を重ねていく。一方、文大杉並は、#6の果敢なプレーからのバスケットカウントでチームメートの士気を高めるも八千代27-18文大杉並で終了。

2Q：八千代はゾーンディフェンスでスタート。文大杉並が徐々にリズムを掴み始め#7の連続3Pで点差を詰めるも、八千代のディフェンスを崩しきれず得点が伸びない。対して八千代は早い展開から#4、#5が加点して、46-38で前半終了。

3Q：文大杉並はディフェンスをオールコートに切り替えプレッシャーをかけた。リズムを掴みかけるも八千代のディフェンスを突破できずに波に乗りきれない。八千代もシュートチャンスを作るも思うようにシュートが決まらず62-51で3Q終了。

4Q：文大杉並の#4のバスケットカウントで勢いよくスタートを切り、ディフェンスもオールコートに切り替え追い上げを図る。八千代はリバウンドを優位に確保し、落ち着いてゲームを展開し、#10の連続3Pで逃げ切りを図る。文大杉並も#6のパワープレーで粘りを見せるも80-69で試合終了。

八千代の多彩なディフェンス変化が相手を翻弄したゲームとなった。

主審	第1副審	第2副審
松崎 かおる (茨城)	内藤 教子 (山梨)	田中 由紀子 (栃木)